

刀剣乱舞の夢小説を書いた  
と思ったんだけど

...

逆傘

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

刀剣乱舞ならぬ刀剣乱夢書きたかったのに…

# 目次

刀剣乱舞の夢小説を書きたかった…

1



# 刀劍乱舞の夢小説を書きたかった…

燭台切 『僕、君の事が好きなんだ。隠したいくらい、君が好きなんだ…どこかへ行つてしまうつて思ったら胸が痛くつて…君の事が好きつて、ようやく気づいたんだ。』

「…燭台切…？」

燭台切 『ねえ主くん…』

「ねえ…燭台切…」

燭台切 『他のみんなに取られたくないんだ！早くしないと取られちゃう！』

「あのさ…燭台切…」

「ワイ男なんだけど…?」

燭台切 『そんなこと言ったら僕に性別なんてなかったよ?』

「ウンそうだねそもそも人じゃなかったもんね分かるよそれは、分かるけどちよつと無理かなくさすがに無理だよワイ女の子が好きだし」

燭台切 『分かってるよ!主くんは胸が小さいスレンダーボディの水着美女が好きなんでしょ!』

「何故それを…」

燭台切 『普通に主くんの部屋掃除したら本が出てきたけど?確か題名は「初めてはプー…」』

「あーうんごめんそれワイの夜のお供（エロ本）の題名だね言わんとって」

燭台切『そういう感じの子が好きなんだと思って、今日その子と同じような水着を着てk…』

「用事を思い出したので実家（審神者部屋）に帰らせて頂きます」

やばいやばいやばい！このままでとポーズでラブラブ的な展開になってしまおう！ワイのどこに魅力を感じたんや？なんというか自分で言うのもあれだけどThe・男やで？

「あー薬研ニキちーつすちよつといいすか！」

薬研『どうしたんだ大将？慌ててんな』

「実はかくかくしかじか…」

薬研『ふむふむ…いやかくかくしかじかで分かるわけないだろ、ちゃんと初めから説明してくれ』

「ごめんめんどかったの」

審神者説明中…

薬研『なるほど…燭台切の旦那がねえ…』

「助けてやげえもん」

薬研『あいにくネコ型ロボットじゃないから秘密道具は出せねえが…いい方法がある

ぜ。』

「なぬ！その方法とは!？」

薬研『俺つちが大將を隠してやるよ…それならいいだろ?』

「なんもよくねーよニキもピカチュウ（燭台切）と同じかよワイ女の子にもまだモテたことないのに!」

なんてこつたい! やっぱり寄り道せず実家（審神者ルーム）に帰るのが最適解やったんや! ニキがダメなら誰が行ける?

鶴丸『お?なんでそんなに急いでんだ?』

「わっふおうてゆるまるなんぞ」

鶴丸『いやなんでそんなに急いでんだ?今日は急ぎの用事もないだろうに』

これ大丈夫かな…鶴丸も同族だったらまちシャレになんないよ!でも言うだけ言うてみるか…

「なあ鶴丸…俺ピカチュウとニキに告白という名の神隠しにあいそうなんだけど…」

鶴丸『そうか…2人とも俺たちに黙って抜けがけしようとしたのか…』

あつダメだてゆるさんもダークサイドの刀だはよ逃げよ



ん？俺たちって言った？